

2024年12月1日

神戸学園都市 YMCA こども園 12月えんだより

12月の聖句「さあ、ベツレヘムへ行こう。」

ルカによる福音書 第2章15節

我が家の前にある神社の周りに植えられている紅葉が、ようやく赤みを増してきました。紅葉には気温が大きく関係し、8度を下回ると紅葉が始まり、5から6度くらいになると急速に進むそうです。以前は、もっと早い時期に真っ赤に染まっていたように思います。鮮やかな紅葉を見ることがないまま、12月を迎え、街はすっかりクリスマスモードになっていますが、こども園でも、子どもたちと共にクリスマスを迎える準備を進めながら、イエス様がお生まれになった喜びをわかちあいたいと思います。

「死を待つ人々の家」今から70年余り前に、インドのカルカッタでひとりの修道女が設立した施設で、誰からも見捨てられ、貧困や病気で息絶えそうになっている人々の最期を看取る為の施設でした。この修道女は「マザーテレサ」と呼ばれ、多くの人々から尊敬される存在となりました。「愛の反対は憎しみではなく無関心です。」これは、マザーテレサの言葉として多くの人々の心に残っているものです。「最大の悪は、愛の足りないこと。すぐ近くに住んでいる近所の人々が、搾取や、権力の腐敗や、貧しさ、病気に侵されていても無関心でいること。」とも。1981年に日本を訪れた際には、「アフリカの国々が滅びるとしたら貧困が原因だろうが、日本は心が原因で滅びるでしょう。日本人はインドのことよりも日本の国内の心の貧しい人々への配慮を優先して考えるべきです。」「日本人はインドのことよりも、日本のなかで貧しい人々への配慮を優先して考えるべきです。愛はまず手近なところから始まります。」と語られたそうです。

イエス様の時代、「羊飼ひ」は、安息日どころか1日も休むことなく365日、羊たちと共に野原を移動し、礼拝堂で祈りをささげることもできず、社会の底辺の者として蔑まれる存在でした。まさしく『夢も希望もない』毎日を送っていたのではないかと思います。そのような羊飼ひたちのもとに、「あなたがたのために救い主がお生まれになった。」とイエス様の誕生が知らされたのです。「自分たちのために救い主がお生まれになった。」この出来事は羊飼ひたちに大きな『夢と希望』を与えたに違いないと思います。なぜなら、365日休みない羊飼ひの仕事を離れてイエス様に会いに行ったのですから。

5年後、10年後、20年後も心の中に神様の大きな愛を受け取ったこども達が、多くの人々にその愛を与えてあげる歩み続けることができるように願いつつ、今年もまた感謝の心をもってクリスマスを迎えられることを願っています。

12月	乳児（0,1,2歳児）	幼児（3,4,5歳児）
月主題	うれしいね／わくわくするね	共に喜ぶ
月の願い	・保育者や友だちと一緒にクリスマスを感じ、絵本や讃美歌を楽しむ。 ・友だちや保育者と共に喜びを言葉や身体で表す。 ・冬の訪れの中で、いろいろなことを見たり感じたりして楽しむ。	・イエス様のご降誕を楽しみに待ち、クリスマスを祝う喜びを知る。 ・寒さを感じる季節の中、身体を動かすことに関心を持っていく。 ・一人ひとりにいただいている恵みに気づき、アドベントの生活を経験する。
讃美歌	「おほしがひかる」 こども改77	「きよしこのよる」 こども改74